

30年9月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成30年 9月1日～ 30年9月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
9月分の回答企業数は5社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/9月	10月	11月
入荷動向	国産材	△ 12.5	△ 12.5	0.0
	外材	16.7	△ 16.7	△ 16.7
在庫動向	国産材	12.5	12.5	0.0
	外材	0.0	△ 16.7	△ 16.7

・国産材ラミナの入荷動向は9月、10月の減少から11月は横ばいに。外材は9月の増加から10月、11月は減少に。

・国産材ラミナの在庫動向は9月、10月の増加から11月は横ばいに。外材は9月の横ばいから10月、11月は減少に。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/9月	10月	11月
国産材	0.0	0.0	0.0
欧州材	16.7	16.7	16.7
その他	0.0	0.0	0.0

・国産材ラミナの入荷動向は横ばい。

・欧州材は強保合。その他（米ヒバ）は保合。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・外材の仕入契約を減らした分、翌月から反映される。少々生産増のため在庫はラミナ減となる見込み。
・国産材ヒノキ入荷動向は、9月は入荷若干減らす見込みで、更に10月も入荷は絞る。大口のヒノキ集成材顧客がコストを重要視し、スギ集成材に樹種の切り替えを検討しているという情報を掴み、他社購入分に関しては売材ラミナ入荷は9月、10月と様子見とする計画。また、全体的な市況感も秋需の傾向を感じられず、ヒノキ集成材も若干の減産傾向で調整中。米ヒバの入荷動向は、生産が上がらなかったため入荷を抑えて来たが、8月からは通常の間月1, 200m³程度の入荷に戻した。9月以降も同様のペースで入荷していく予定。国産材ヒノキの在庫動向は、これまで集成材生産量は増えて来たが、今度は完成品の販売が伸び悩みつつある。そのため、生産を若干調整しヒノキ集成材の生産量も若干抑える方針。従って、余剰となったラミナ在庫は増える傾向にある。自社製材工場の稼働は落としたくないので、外部からの購入ラミナを減らして調整をする。米ヒバの在庫動向は、一時の現地での素材集材難は完全に払しょくされた。9月、10月と販売量や生産量が大きく変わることも想定されず、当面安定的に推移する予定。

(ラミナ価格動向)

・欧州材初めて為替フィックスのため単価変わらず。
・ヒノキラミナの価格動向は、7月に西日本豪雨があり原木入荷が非常に厳しいが、何とか値段を上げずに集荷が出来ている。今後秋需も控え、各製材工場は忙しくなると予想されるため、強含み傾向が続くと見られる。集荷に苦慮する。外材ラミナの価格動向は、世界的に木材需要は高まっているので、対日向けのオファーについても欧州サプライヤーは強気に出て来ており、3rdQTのオファーは2ndよりも値上がり決着したと聞いた。一方国内市況から鑑みて完成品の値段はなかなか上げられないので、国内集成材サプライヤーは非常に厳しい運営を強いられているものと思われる。米ヒバは急激に値上がりした米国向け米スギ材の代替需要により、米スギにつられて値段が上がってきたが、ここに来て米スギ価格は完全に天井に達し下落し始めた。米スギが手に入るのであれば米ヒバに対する代替需要も落ち着き、現在では横ばいから若干弱含み基調で推移している。

30年9月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/9月	10月	11月
生産動向	国産材	25.0	0.0	0.0
	WW集成管柱	0.0	0.0	0.0
	RW集成平角	16.7	0.0	0.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	0.0	0.0	0.0
	WW集成管柱	0.0	0.0	0.0
	RW集成平角	16.7	0.0	0.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—

・国産材、RW集成平角の生産動向は9月の増加から10月、11月は横ばいに。WW集成管柱、米マツ集成平角とも3カ月連続横ばい推移。

・国産材、WW集成管柱、米マツ集成平角の出荷動向は3カ月連続横ばい推移。RW集成平角は9月の増加から10月、11月は横ばいに。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	30/9月	10月	11月
スギ集成管柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成土台	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成土台	0.0	12.5	0.0
WW集成管柱	0.0	0.0	0.0
RW集成平角	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
米マツ集成平角	50.0	50.0	50.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成平角	0.0	0.0	0.0

・スギ集成管柱の価格動向は横ばい。
 ・ヒノキ集成柱、集成土台とも横ばい。
 ・カラマツ集成土台、集成平角とも横ばい。
 ・WW集成管柱横ばい。
 ・RW集成平角は弱保合。
 ・米マツ集成平角は強含み。
 ・米ヒバ土台角横ばい。

モニターからのコメント

(構造用集成材の荷動き)

・全体的に荷動きが良くない。復興需要も残り僅かな状況。一般住宅については、地場工務店が仕事を取れていない模様。大手ビルダー関係も動きは今ひとつ。

・受注に合わせた生産のため、多少前月より生産増となる。出荷が多少増えるも、来月以降迫力感じず。

・ヒノキ集成材の荷動き動向は、8月は猛暑の影響からか機械トラブル続出、お盆休みの不規則操業もあって生産は期待した通り伸びなかった。9月は比較的順調に生産が出来たが、市況が期待した秋需の伸びが見えず。10月の生産は若干調整を行い「とにかく増産」から「現状維持」に方針転換する。WW集成管柱は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、競合するスギ集成材が価格競争力があり、更に製品在庫も相当量積み上げているとの噂もあり、管柱マーケットの動きは鈍いと思われる。多少市況が回復してもなかなか増産に繋がる要因がないのではないかと。RW集成平角は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、9月も荷動き未だ悪く販売苦戦していると思われる。期待した秋需の需要回復も今の所見られず、増産に向けたポジティブな要因は見られない。米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米マツ集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米マツラミナ原料のコストは急激に値上がりしており、製品の値上げも行われていると聞く。今後その影響で受注が減る＝生産も減る可能性も。米ヒバ集成土台は、8月生産が不調で、生産量を伸ばせなかった。逆に9月はその分生産を伸ばし、挽回に成功した。10月以降は安定して月産800m3の生産を継続する予定。ヒノキ構造用集成材は、8月はお盆休みもあり7月と比較するとやや低調となった。9月は秋需による引き合い増加を期待したが、これが予想したほど伸びず出荷増に繋がっていない。また米材全面高の影響から米材を素材にした防腐注入土台からヒノキ集成材に代替需要が発生しており、レゾ系に注文が集中、イソ系の注文は逆に減少し注文のバランスが悪い状態も改善されず、非常に悩ましい。WW集成管柱は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、競合するスギ集成材が価格競争力があり、更に製品在庫も相当量積み上げているとの噂もあり、管柱マーケットの動きは鈍いと思われる。ただ、それでも「RW集成平角よりはまだ多少販売はしやすい」との話も聞き、RW集成平角よりは荷動きはいくばくかは順調な模様。

RW集成平角は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、9月も荷動き未だ悪く販売苦戦していると思われる。期待した秋需の需要回復も今の所見られない。出荷増につながる前向きな要因は見当たらない。米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米松ラミナ原料のコストは急激に値上がりしており、製品の値上げも行われていると聞く。今後その影響で受注が減る可能性も。米ヒバ集成土台は、8月は生産不調により注文があったにも関わらず出荷に繋がれなかったが、9月はその反動で溜まった受注残を消化していった結果、出荷量は増えた。10月からは生産と受注を一定に安定させたい。

(構造用集成材の出荷価格動向)

・スギ集成管柱は、相場はずっと変動していない。そのため一定の顧客以外は積極的に販売していない。「カラマツ集成土台」：ラミナ価格は上げ基調であるが、荷動きが悪いため値上げは苦戦している。「カラマツ集成平角」：価格は基本的に土台と同じ状況。

・RW集成平角は弱含みの傾向。

・スギ集成管柱は、当社生産品目ではないが、杉集成管柱は大手メーカーが安定量産体制を整えたことから、在庫潤沢に抱えているとの噂もあり、一部価格の弱含みも聞く。弱含み傾向で当面横ばい推移と予想する。ヒノキ集成柱は、原料価格は原木などジリジリっと値上がりしたこともあり、製品価格も値上げしたい所だが、来年以降の需要減少に備えてあまり無茶は出来ない。価格は当面維持して、それよりも値上がり傾向の他樹種材料からのシェア奪取を図る。ヒノキ集成土台は、原料価格は原木などジリジリっと値上がりしたこともあり、製品価格も値上げしたい所だが、来年以降の需要減少に備えてあまり無茶は出来ない。価格は当面維持して、それよりも値上がり傾向の他樹種材料からのシェア奪取を図る。カラマツ集成土台は、当社生産品目ではないが、同業他社の話によれば、年明け以降荷動きは急激に低下、4月以降徐々に盛り返してきているものの、どちらかと言えばまだ低調気味。価格は1月に一度値下がりしてから横ばい推移が続く。WW集成管柱は、当社では取扱いないが、スギ集成材が国内マーケットである程度のシェアを持つに至り、スギ集成材との価格バランスの兼ね合いから、価格は横ばい推移が続く。荷動き悪化のため、価格は上げるチャンスもなく、一方原料コストはジリジリと上昇するため国内メーカーは非常に苦しいポジションではないか。RW集成平角は、ラミナコスト上昇に伴い製品販価63,000円/m3程度まで上昇したが、それ以降荷動き低下し販売苦戦。期待した秋需の盛り上がりもなく、完全に弱含み状態。原料のラミナコストは一方的に上昇しているため、国内サプライヤーは非常に苦しいポジションを強いられているものと推察する。米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米松ラミナ原料のコストは急激に値上がりしており、製品の値上げも行われていると聞く。米ヒバ土台角は、この一年間で最も値段が上がった並材製品と言える。この一年間苦しい値上げ交渉を続けて来たが、2018年1月を以てほぼ値上げの交渉が完了した。2018年4月からようやく全ての顧客に新単価が適用できるようになった。今後の価格については当面様子を見る。